

有限会社後藤金型興業所（東京都）

～ 常に新しいアイデアを追い続ける ～

1. 親子3人の金型製造企業

後藤金型興業所は、昭和45年に創業し、主にエアゾール缶用のキャップの金型を製造してきた。創業当時から後藤社長は、キャップのいろいろな工夫を考えてきたが、特許を取って独占的に商売することは考えていなかった。その中でアイデアを盗用され、しかも特許まで取られた苦い経験があって以来、特許を意識するようになった。

平成14年頃になり、金型の注文が少なくなったことによる危機感から、オリジナルの技術開発に取り組み、結果、ガス抜きキャップ「e-CAP」を製品化した。

2. 使用済みスプレー缶のガス抜きはこれで簡単解決

使い終わったあとのスプレー缶のガス抜きは面倒であるが、ガス抜きをしてからゴミとして出さないと、ゴミ回収時などに爆発してしまう危険性がある。同社のガス抜きキャップ「e-CAP」は、上部の切れ込みがある部分の中央を“カチッ”と音がするまで押し込み、もう一度スプレー缶にはめると、キャップ上部の押し込まれた部分が自動的に噴射部を押し続けるため、放置しておけばスプレー缶の中のガスが全部放出することができ、そのままゴミとして捨てることができる。

2年半かけてこの新技術を完成させ、直ちに弁理士に特許出願を依頼した。その後は、ただ弁理士にまかせるだけでなく、社長自らも、大田区産業振興協会や、東京都知的財産総合センターで知財について勉強し、平成17年には無事特許を取得した。

また、ガス抜きキャップの第2弾である「GT-CAP」の開発の時には、後藤社長の見た夢である、線が放射状に伸びているナスカの地上絵をヒントにすぐさま図面をおこしたことが発明の突破口になった。

この「GT-CAP」は、使い終わったスプレー缶の噴射ヘッドを外し、キャップの天面のくぼみに差込むと自動的にガスが抜けるという仕組みであり、「缶にはめやすく、外しやすいが、ひとりでに外れにくい」という、一見矛盾しているようなことを実現しており、しかも、缶の直径が同じであれば、ほぼすべての缶に対応できるという優れ物である。

3. 特許でさらなる事業展開へ

後藤金型興業所は、金型製造業であるため、特許を取得しただけでは最終製品に結びつかないことから、キャップメーカーと特許契約を結んで製品化を行っている。そのことによってメーカーとの受注関係や信頼関係ができ、別の金型製造の仕事も受注できるようになり、この相乗効果から事業が伸びている。

新しいアイデアを創り出し続けていくことが重要だと考えており、現在はさらに次の新製品開発をねらって、研究開発を継続している。

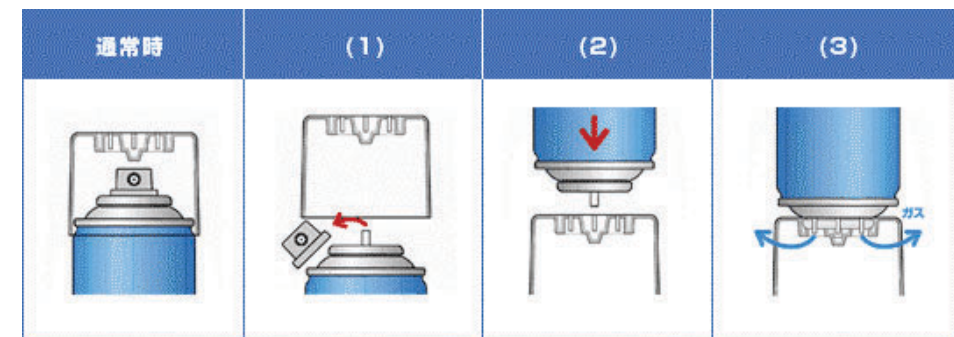
特許の価値を強く感じており、日々勉強を重ね、今後も特許を大切にして事業を展開していくつもりである。

【保有権利に基づく製品例】



左が「GT-CAP」右が「e-CAP」

「e-CAP」の説明



- (1) 缶からキャップを外し、ボタンを取る。
- (2) 倒立状態で、キャップ天面のくぼみに缶を差し込む。
- (3) 残りガス排出開始。

<会社概要>

名称及び代表者名	有限会社後藤金型興業所 代表取締役社長 後藤 孝
本社所在地	東京都大田区本羽田1-30-8
創業	1970（昭和45）年
資本金	300万円
従業員数	3名
主要製品	エアゾール容器用ガス抜きキャップ、化粧品用キャップ、食品用キャップ
電話	03-3744-0448
URL	http://www.gotokanagata.com/